

2022年室内環境学会学術大会 学生懇談会実施報告

内田亜美¹⁾, 西山裕那¹⁾, 松浦琴音²⁾, 三浦花奈²⁾

¹⁾静岡県立大学 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

²⁾東京学芸大学 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

Report on the 14th Practice of Student Meeting Held in Annual Meeting on Society of Indoor Environment, Japan 2022

Tsugumi UCHIDA¹⁾, Yuna NISHIYAMA¹⁾, Kotone MATSUURA²⁾ and Hana MIURA²⁾

¹⁾University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 422-8526, Japan

²⁾Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-city, Tokyo 184-8501, Japan

Key words: 学生懇談会(Student Meeting), 交流(Interaction), ディスカッション(Discussion)

1. はじめに

本学会における学生懇談会は今年で14回目を迎えました。学生懇談会では、本学会の学生活動をより盛んにすることを目的とし、学会に参加する学生同士の親睦や情報交換の場として学生会員が活動しています。学生懇談会は2009年に第1回が行われてから毎年開催され、大学や専攻・学年の垣根をこえて交流が行われています。今回の第14回の学生懇談会には33名の参加があり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとったうえで、昨年度と同様、対面で行われました。本報告書では当日の進行と記録を、学生世話人が参加者を代表してご報告致します。

2. 実施概要

日時：2022年12月1日（木）14：00～15：30

場所：江戸川区総合文化センター C会場 2F 会議室

テーマ：他分野と繋がり未来をつむぐ

学生世話人：

内田亜美（学生会員，静岡県立大学）

西山裕那（学生会員，静岡県立大学）

松浦琴音（学生非会員，東京学芸大学）

三浦花奈（学生非会員，東京学芸大学）

プログラム：

1) 開催趣旨説明

受付日：2023年1月6日（Received: 6 January 2023）

受理日：2023年1月10日（Accepted: 10 January 2023）

2) 参加者の自己紹介

3) グループディスカッション

4) まとめ

参加者：静岡県立大学（8名）、大阪大学（8名）、横浜国立大学（6名）、東京学芸大学（4名）、北九州市立大学（2名）、大同大学（1名）、早稲田大学（1名）、東京都立小石川中等教育学校（1名）、東海大学（1名）、愛媛大学（1名）計33名

3. 実施内容

3.1 開催趣旨説明

本学会には、健康で快適な室内環境の創造をキーワードに、化学、医学、工学、家政学などさまざまな分野の研究者が集まっています。近年では、単独の学問分野では解決が困難な研究領域に対して、多様な学問分野を統合して横断的に研究を進めていく学際的研究が進められています。今年の学生懇談会のテーマは、大会テーマでもある“つむぐ”を取り入れ、「他分野と繋がり未来をつむぐ」としました。この懇談会では、多様な専攻の学生たちが集まり、各自が取り組む研究テーマやその面白さ、悩み事などを共有することで、それぞれの専門分野の接点に気づき、異分野と繋がるきっかけや未来を紡いでいく活力を持つ機会とすることを目的としました。

3.2 参加者の自己紹介

学生懇談会は参加者の自己紹介から始まりました。今年の学生懇談会は前年と比べ、より多数の学生が集まったことから、全体での自己紹介は行わず、4つのグループに分かれてそれぞれで行いました。所属大学や所属高校と学年、氏名、研究内容についてグループ内で発表しました。学生懇談会への参加が初めての学生も多く、最初は緊張した雰囲気が広がっていましたが、自己紹介の時間が過ぎていくにつれ、和やかな空気になりました。特に、研究内容の紹介では、同じ室内環境分野の研究を行っているものの、室内環境を様々な視点から捉えた研究があり、多様な研究分野について興味を持つきっかけになったと思います。また、自身のポスター発表や翌日に控えた口頭発表の内容について話す参加者もいて、互いに良い刺激となり、発表へのモチベーションにも繋がったように思います。学会中の研究発表では、他分野の専門的な内容ということもあり、難しいと感じることも多くあります。ですが、同じ学生同士と

いう立場から、気軽に質問ができる雰囲気のなか、分かりやすく説明してもらうことができました。研究内容について単純明快に他者に説明することや、他分野の基礎的な知識を学ぶことができ、非常に良い経験になったと思います。

3.3 グループディスカッション

今回のグループディスカッションでは、より気軽に学生同士の親睦を深めるため、各グループ内において自由なトークテーマでやり取りが行われました。また、より多くの学生と交流し、関わりを持つことができるよう、席替えの時間を設けました。最初のグループのメンバーだけでなく、席替え後のメンバーとも多種多様な話題で仲を深めることができました。日本国内の様々な地域から集まっている本学会の学生懇談会ならではの話題から、学生ならではの話題まで、グループによって様々でした。地域性を感じる話題としては、大学周辺やその県のおすすめの場所や食べ物、出身地についてなどがありました。他



写真1 学生世話人紹介の様子



写真2 グループディスカッションの様子

県の良いところや住みにくいところまで、学生の視点から話を聞くことができました。コロナ禍の学生ということで、行動制限によって息苦しい生活を送っていた学生も多かったことが事実ですが、今回の話題で旅行気分を味わうことができたと思います。さらに、卒業旅行の計画を立てている学生もあり、今後の参考になったと話していました。また、高校生から大学院生まで、幅広い年齢の学生が参加したことから、就職活動の経験談や大学院進学を決めた理由、アルバイトについてという話題もありました。コロナ禍の就職活動では、現地開催の面接が少なく、非対面のオンラインでは熱意や表情が伝わりにくく、自身の良さが生かしきれなかったと話す学生も多かったです。また、行動制限の影響により、企業説明会やインターンシップが中止になったことで、周囲の学生や企業側との情報共有がとりにくかったということや、学生生活におけるエピソードが少なかつ

たといった苦悩もみられました。一方で、オンライン上で面接や企業説明会が行われたからこそ、移動時間や費用について考慮しなくてもよいという利点もありました。

4. まとめ

今回の学会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとったうえで、発表や討論は会場で対面での開催となり、多くの学生の皆様にご参加いただきました。なかでも学生懇談会は、同世代の学生が集まり、気軽に対面で会話できる貴重な機会となりました。コロナ禍であり、他大学や他学年の学生との交流の機会が少なかった学生にとって、大変有意義な時間になったと感じています。今後もこの活動が引き継がれ、参加者の皆様にとって価値のある会になることを期待しています。



写真3 学生懇談会 集合写真